

9月	<p>プログラムバンカー日体験 体験型お片付け教室(9/18)</p> <p>つながりカフェ テーマ:聞きたい、話したい 都筑のイベント (9/28)</p>
10月	<p>輝く女性応援プロジェクト新講座 そろそろ本気の“わたし”2019(10/3~)</p> <p>プログラムバンカー日体験 初めての気香レッスン(10/4)</p> <p>つながりカフェ テーマ:ふるさと都筑を語ろう(10/23)</p> <p>縁ジンミーティング 団体のブランディングを考えよう(10/28)</p>
11月	<p>第23回つづき人交流フェスタ 参加者説明会(11/7)</p> <p>プログラムバンカー日体験 げんき絵手紙講座(11/16)</p> <p>縁ジンミーティング 伝わるポスターをデザインしよう(11/18)</p>

毎月開催 第3金曜日 転勤妻のおしゃべりサロン 第4金曜日 ボランティアベースつづき

縁ジン




2019.9.1
vol.21



つづきパソピア代表
山鳴庵の会代表
井藤 美知子さん

地域デビューのススメ
vol.17



都筑区に引っ越してきた頃、地域に知り合いがおらず、色々な講座を受けていました。「講座を作ろう」という講座の受講をきっかけにパソコンの講座を作りたいと思いました。区民活動センターの相談員にこの思いを話したことで、パソコンボランティアをやりたい人達と繋がりができグループになったのがつづきパソピア(以下、パソピア)です。パソピアは規則も会費もない。パソコンができなくても、受付や会計としてメンバーになってもらいます。山鳴庵の会という活動もしています。この活動のきっかけは、川和町の茶室(山鳴庵)が10年ほど使用されておらず、都筑区民活動センターに相談に来ていたところに、偶然私がいてその場で店主とお話したのが、山鳴庵の会の始まりです。山鳴庵の会では、茶室の掃除・保全が主な活動ですが、それだけでは面白くないので、毎年イベントも開催しています。最近では、「川和さんぽと本格的茶室体験」を行いました。イベントや口コミのおかげで、近所の小中学生や今までお茶室に入ってみたくも入れなかった人達が来るようになりました。来てくれると楽しかったと言ってもらえます。これが嬉しい。掃除の日には、掃除が終わったら抹茶とお菓子をいただきます。パソピアでも活動の中で必ずコーヒーとお菓子をいただくのですが、飲んだり食べたりすることでリラックスできるので、活動の上で大事にしています。


— 普段心掛けていることは何ですか? —
何でも頼まれたら断らないようにしています。断らないことでつながりができます。また、「できない」は言わない。どうしてもできるかを常に考えて、やると決めたら責任を持って最後までやります。一緒に活動するメンバーも思いは同じです。

— これからデビューする人にメッセージ —
好きなことを見つけるといいです。実際にサークルやグループの活動に参加してみても合わないと思ったら、辞めて他に行く。他のグループに行くことに後ろめたさを感じなくていいと思います。また、「こういうことをやりたいけど誰か知りませんか?」とか「これがあったらいいな」を常に人に話していると、誰かが教えてくれたり、想いが実現したりします。どんどん人と話さないと、何も始まりません。

■山鳴庵の会イベント「十三夜の会」10/11(金)18時~20時どなたでも参加可 詳細は都筑区民活動センターまで



特集
青少年を地域で育む



市民ライターが特集記事を書いています

広報誌「縁ジン」の記事を書くライターを養成する「市民ライター養成講座」前半が終了しました。講師の北原まどかさん(NPO法人森ノオト理事長)から、取材の心得や文章の書き方を学びました。今号の特集「青少年を地域で育む」も、4人の市民ライターが記事を書き、全員で記事を編集しています。ぜひご覧ください。



夜間開館します

開館時間延長を実施します。区民活動センターでは、利用者の利便性を高めるため、また現在の開館時間では利用できない区民の皆さまに利用していただくため、試行的に下記の期間、週1回開館時間を延長します。

【試行予定期間】令和元年11月1日~令和2年3月31日
【延長予定時間】毎週金曜 17時~20時(祝日・年末年始休館)

Facebook始めました

都筑区民活動センターの公式Facebookでは、いち早く、講座やイベント情報を掲載します。Facebookもチェック!



何かを始めるきっかけマガジン「縁ジン」 2019年9月 第21号
編集/企画: 都筑区民活動センター
発行: 都筑区役所地域振興課
問い合わせ
都筑区民活動センター
横浜市都筑区茅ヶ崎中央32-1 都筑区役所1階
☎ 045-948-2237
✉ tz-katsudo@city.yokohama.jp

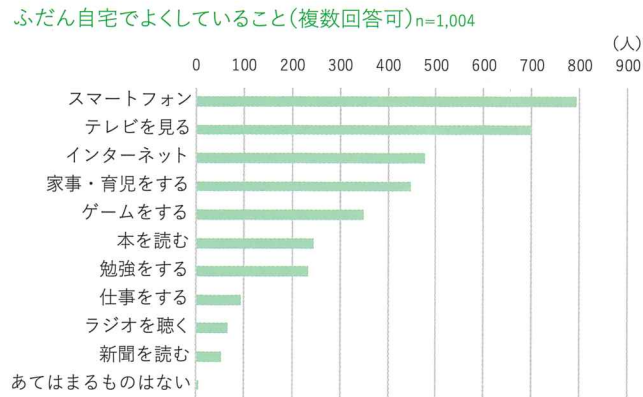
- contents
- 特集 青少年を地域で育む
 - 輝く女性応援プロジェクト 新講座
 - ボランティアベースつづき
 - つながりカフェ
 - 縁ジンミーティング (団体向け講座)
 - プログラムバンカー日体験
 - 縁ジンきっかけカレンダー
 - 地域デビューのススメ
 - 市民ライターが記事を書いています

7月から8月にかけて開催された、青少年のためのボランティア体験「はあとdeボランティア」は12回目の開催となり、今年は小学5年生から高校3年生までの269人が参加しました。この日は、都筑区民活動センターの池の清掃をしてくださいました。夏休みの勇気ある一歩が、大きな未来につながります。(詳細は特集記事参照)

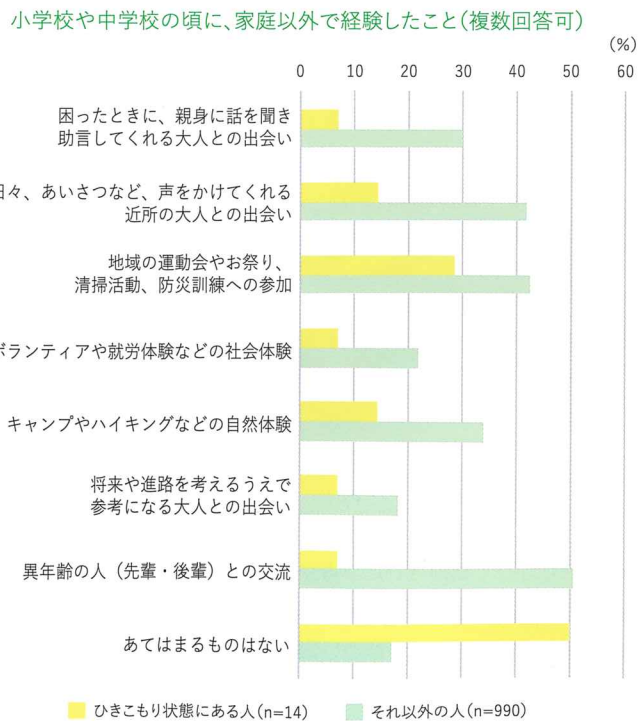
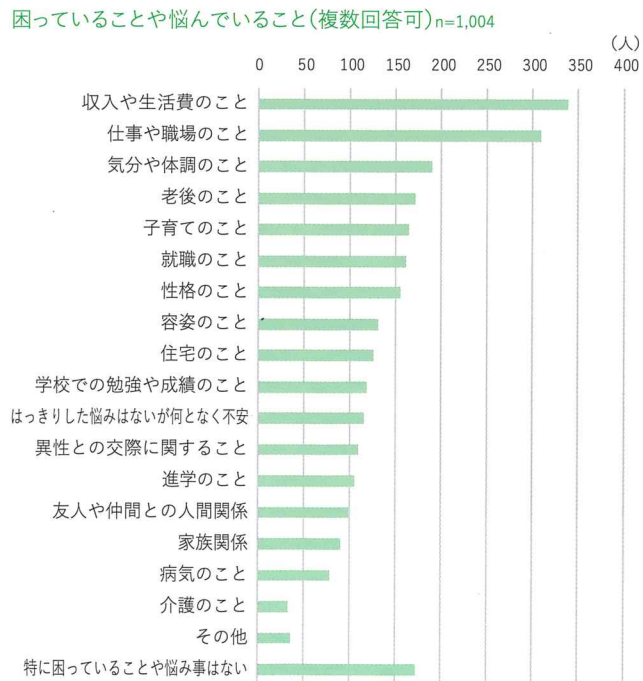
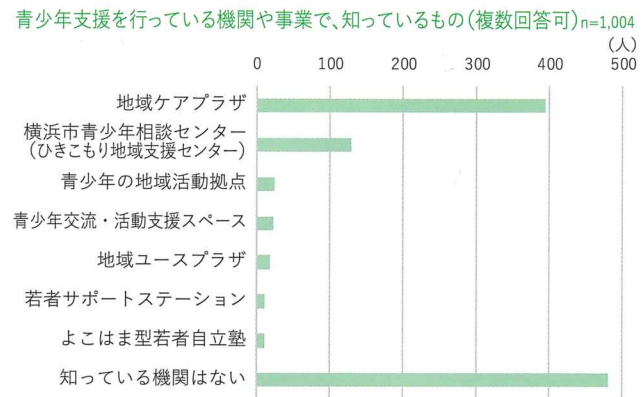
昨今、青少年の目覚ましい活躍がニュースになる一方で、悲しい事件で取り上げられることもあります。
 子供・若者育成支援推進大綱(概要)(平成28年2月9日決定)では、青少年の地域社会での現状と課題に「地域におけるつながりの希薄化の懸念」「地域住民、NPO等が子供・若者の育成支援を支える共助の取組の促進が必要」と謳われています。
 全ての青少年が健やかに成長し、自立・活躍できる社会を目指して、地域で何ができるのか。今号では、「青少年を地域で育む」をテーマに、都筑区の青少年の現状と、地域で青少年育成に取り組んでいる施設・人物に焦点をあてます。

特集 青少年を地域で育む

データからわかる青少年の現状



平成29年度横浜市子ども・若者実態調査より
 横浜市内に住む子ども・若者(15~39歳)から無作為に抽出した3,000人に対し、得られた有効回答数1,004人(その内、ひきこもり状態にある人14人)のアンケート調査をもとに作成
 ※ひきこもり状態とは、ほとんど家から出ない状態が6か月以上継続し、かつ、疾病、介護、育児等をその理由としない者



青少年が喜怒哀楽を共にできる場

よこはま北部ユースプラザ

施設長 織田鉄也さん
 地域連携相談員 渡部駿平さん

平成29年度「横浜市子ども・若者実態調査」によると、様々な事情でひきこもり状態になってしまった15~39歳の若者が、少なくとも15,000人いると推計されている。そういった若者の相談や居場所の運営をしている、よこはま北部ユースプラザ織田鉄也さんと渡部駿平さんに若者たちへの思いを伺った。
 取材・文=市民ライター・小林涼子



1. 哲学を愛する施設長の織田さん。2. 2児の父親 渡部さん。好きな映画は「男はつらいよ」 3. 居場所では女子会も行われている

自分たちが信頼に足る人に

施設長の織田さんは、学生時代から塾講師や不登校等のフリースペースなどでアルバイトをし、それ以来子どもや若者の育成に携わってきた。大学を卒業後、勤務した小学校の障害児学級で高機能自閉症の子どもに関わったとき、「自分は彼らの未来を救っているのだろうか」と葛藤することもあった。振り返るとそのことが原点になっていると話す。
 支援するうえで心がけていることについて伺うと、「マニュアル通りに話を聞くだけでは本当の言葉は引き出せない」と語る。人に信頼を寄せられない当事者が今日来てよかったと思えるような支援をするためには、「彼らが笑えたり泣けたり感情を出せることが大事。そういう人たちは確実に変わる」と確信を込めて答えた。

寄り添えるやわらかさ

スタッフの渡部さんは高校時代、友人との表面的な付き合いに不満を持っていたながらも、誰にも相談できずに孤独を感じていた。その経験から、人の孤独に寄り添うこの仕事に自然と行き着いた

のではと振り返る。
 渡部さん自身も誰かに相談することに苦手意識があると言う。そのため、当事者について「相談に来てくれること自体がすごい。その人にとっては思い切った行動」だと話す。また、渡部さん自身もどうやったら相談のハードルを下げられるか考えながら当事者に向き合っている。相手が心を開けるよう「相談しやすい人、関わりやすい人になりたい」と笑顔で語った。

サードプレイスの必要性

よこはま北部ユースプラザ内は、楽器コーナーや畳スペースなどが設けられており、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫されている。その中で、当事者がやりたいと思ったことをどうしたら実現できるか、共に考えるのもスタッフの役割だ。お話を伺ったときも、利用者スタッフの雑談から高尾山に行く企画が持ち上がった。こういった経験が、自分たちで何かを作り上げていく喜びにつながると織田さんは言う。
 このような、家庭でも学校でもない第三の居場所について、織田さんは「生きていくことは、生きる張り合いを見つけること。それは社会にたくさんある。

色々な社会との関わり方があっても良い。自分なりの生き方をここで見つけて欲しい」と言葉を結んだ。
 ひきこもり状態になってしまった人は、社会に出たくても出られないという葛藤を常に抱えている。当事者には、社会と出会い直していく場の一つとして、よこはま北部ユースプラザにぜひ足を運んでもらいたい。

information

よこはま北部ユースプラザ
 住所:横浜市都筑区茅ヶ崎中央 11-3
 ウェルネスセンタープラザ南ビル3階A号室
 TEL:045-948-5503(相談)
 045-948-5505(お問い合わせ・FAX)
 URL: <http://www.kitapla.jp>
 Twitter: @kita_pla
 開館時間
 [相談]月曜~土曜 11時~19時
 [居場所]月曜~土曜 11時~17時(水曜除く)
 ※休館日:日曜・祝日・第3月曜・年末年始

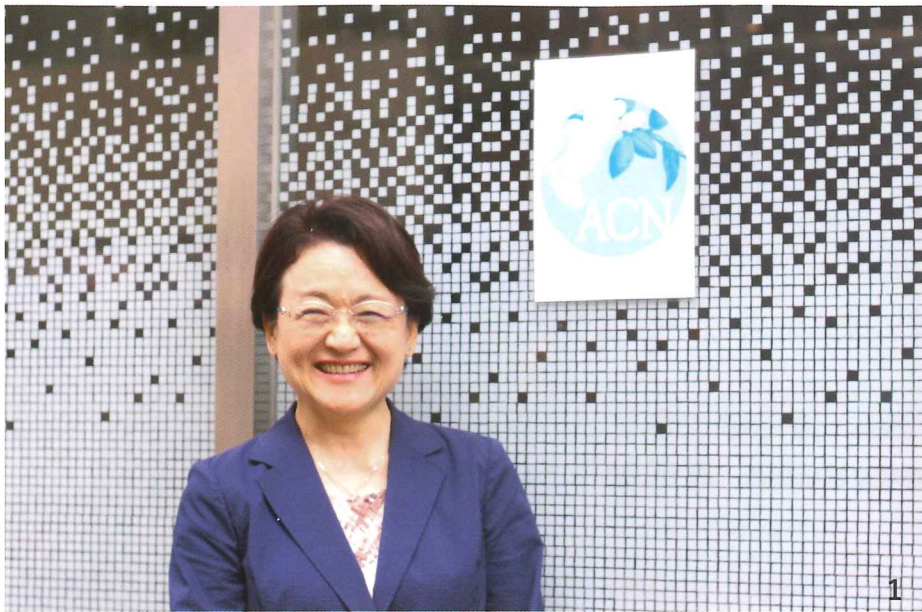
不登校や引きこもりから 自分らしく社会とつながる —— 傾聴を通じた青少年支援

NPO法人アーモンド
コミュニティネットワーク

理事長 水谷裕子さん

生きづらさ、悩みを抱える青少年が、自分らしく生きるためのフリースペース“ともにあ・る・く”を運営するNPO法人アーモンドコミュニティネットワーク(以下、ACN)。理事長の水谷裕子さんに、これまでの活動と傾聴による青少年支援についてお話を伺った。

取材・文・写真=市民ライター



1.やさしくあたたかい笑顔が印象的な水谷さん 2.凸凹コミュニティアートプロジェクト作品が飾られた活動拠点のアーモンドホープセンター 3.「復活・再生」の意味が込められたアーモンドの花がモチーフの団体ロゴ

かつて悩んでいた当事者が、今では支援者に

ACNは都筑区で活動をスタートして20年になる。ACNでは、傾聴による心の支援をベースに、「青少年の居場所作り」「学習支援」「アーモンド地域食堂(こども食堂)」「凸凹コミュニティアートプロジェクト」「傾聴セミナー」「外国につながる家庭支援」等の活動をする。今あるこれらの活動の中には、水谷さんが講師をした傾聴セミナーなどの講座終了後、受講者が自主的にグループを作り、現在も活動が続いているものもある。受講者の中には水谷さんとの出逢いと傾聴の学びによって、悩みが改善され元気になり、今度は水谷さんと共に相談者を支援する立場になった人もいる。「かつて同じような経験をし、傾聴の必要性がわかっているからこそ、相談者に心から寄り添える支援者になる」と水谷さんは語った。「ともにあ・る・く」で活動する支援者は全員、傾聴の研修を受けている。支援者は、繊細な心の状況にある不登校や引きこもり当事者とその家族の心にやさしく寄り添い「ひとりの人と向き合い今必要な支援」を丁寧に積み重ねている。

学校や職場に行くことがゴールではない
“ともにあ・る・く”を利用する青少年は、否定された

り、合わない枠にはめられることなく、まるごとの存在や気持ちを受け入れてもらえる時間を過ごす。「やりたいことなんてない」と言っていた青少年も、ありのままの自分を出せるようになると、「やりたい!好き!得意!」が見えてくる。中には「アニメが好き!アートが好き!」という想いを言葉にできるようになり、現在はアニメーターとして活躍している人もいる。「ありのままの自分を新しく見つけるといふより、実は既に心の奥にあった想いや願いを外に出せるようにサポートしていく感じなんです」と水谷さん。自分らしく個性や才能を発揮して、社会貢献や就職、共にACNを支えてくれる仲間として踏み出している青少年もいる。水谷さんにお話を伺い、不登校や引きこもり支援のゴールは必ずしも学校や職場に戻るのではなく、自分の夢や想い、個性や才能に気づき、それを生かし輝ける場で、自分らしい生き方・働き方・社会との関わり方を見つけられることなのだとは私に気づかされた。

人と出会うことで元気になり「生きる力」が生まれる

水谷さんは、人と人が出会う場を作ることに喜びや幸せを感じるそうだ。「人は人と出会うことで元気になる!生きる力が湧いてくる。自分らしくある

場が人を健やかにしていく」と水谷さんはおっしゃった。「ともにあ・る・く」でも、利用者が一方的に支援を受けるのではなく、支援者が利用者から元気をもらうこともあるし、支援者が自分の役割を発揮できる場にもなっている。支援する側とされる側、双方が支え合って生きる場になっている。この記事が、悩みを抱える青少年と、彼らを支援する人との出会いのきっかけとなり、自分らしく健やかに生きられる青少年が増え、さらなる幸せの循環が広がってゆくことを願ってやまない。

information

NPO法人アーモンドコミュニティネットワーク
住所:横浜市都筑区北山田1-9-3
エキニワ北山田ビル1階・2階
TEL:045-594-7566
e-mail:infoacn@npoacn.or.jp
URL:https://npoacn.or.jp/

「成功も、失敗も 経験になるんだよ」 —— 夏休み 君はどうしていた?

つづきMYプラザ
(都筑多文化・青少年交流プラザ)

館長 林田育美さん

つづきMYプラザ(正式名称は都筑多文化・青少年交流プラザ。以下、MYプラザ)は、外国人の日本語学習や生活の相談にのったり、青少年の健やかな成長を願って居場所をつくり、活動を支援している施設だ。夏休みの子どもたちの姿を追って、MYプラザ主催の中高生のための夏休みボランティア体験「はあとdeボランティア」について知ろうと思い、MYプラザ館長林田育美さんを訪ねた。取材・文=市民ライター・関中子



1.オリエンテーションで子どもたちの声を聞く館長の林田さん 2.体が不自由な方のための生活支援機器開発に将来関わりたいと話す永井さん 3.池の岩の泥を落とし、ザリガニを捕え、メダカを保護する中高生(都筑民家園にてボランティア体験の様子)

「はあとdeボランティア」とは?

「はあとdeボランティア」は、平成20年から始まった。「以前は、青少年の居場所作りが中心だったが、青少年には居場所だけでは不十分で、人との関わりを体験する機会も必要だと思い企画した」と林田さんは落ち着いた表情で話された。その活動は地域に根ざしていて、「まちをきれいにしよう」「国際貢献をしよう」「イベントの手伝いをしよう」「地域の施設で手伝おう」など都筑区の団体や施設とのコラボをしている。また、「夏だけじゃないボランティア」や「中高生による、中高生のためのSTEP UPプログラム」もある(STEP UPプログラムとは、「はあとdeボランティア」の経験者が、自分たちの手で翌年度の体験プログラムを企画し、実施するというもの)。これら幅広い活動の一場面を取材した。

「このドキドキをどうしよう」

7月19日に「はあとdeボランティア」のオリエンテーションが行われた。MYプラザに、子どもたちがポツポツ集まる。80名はいるようだ。だが、顔なじみはないのか、話し声はない。高校生くらい

参加者に聞くと「知り合いがないので、みんな緊張しているんです」とのこと。つまり、同じ学校からの参加は少ないようだ。MYプラザ副館長の茂田芳子さんが笑顔で、「みんな、ドキドキしているね。でもこの緊張がこれから行くボランティア活動の“宝”になるんだよ」と話しかけた。今年で4回目の参加という、高校2年生の永井佑奈さんから話を聞いた。最初は学校の課題のために参加したが、楽しかったので、今ではSTEP UPプログラムの企画にも参加している。今年は、レモネードスタンド活動(レモネードの収益を小児がん治療に寄付するという社会貢献活動)を提案し、この夏、地域の協力を得て、実施できると嬉しそうに話した。そして、「最初は義務でも強制でも構わない。ここでの経験は自分のためになる。何かを提供した分だけ、自分にも何か返ってくる」と永井さんは、後輩たちにエールを贈る。この言葉に、私はボランティア活動の深みを感じた。

この夏、君はどうしていた?

林田さんが「体験活動はうまくいくこともあれば、できないことばかり心に残る青少年もいる。けれ

ど、成功も失敗と感じたことも、豊かな経験だと実感できる機会を作りたい」と話されたことを私は思いました。私は、この企画を地域の人が支えていること、「はあとdeボランティア」の参加者が“宝”を得たことを感じた。“宝”とは、自発性であり、貴重な一歩を踏み出すことだ。私も“宝”を得たのか、ちょっと若返った気がする。ところで、この夏、君はどうしていた?

information

つづきMYプラザ
(都筑多文化・青少年交流プラザ)
住所:横浜市都筑区中川中央1-25-1
ノースポート・モール5階
TEL:045-914-7171
FAX:045-914-7172
開館時間
平日10時~21時 土日祝10時~18時
休館日 第3月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始

子どもの独創性発揮を促す つづきジュニア編集局

NPO法人ミニシティ・プラス

事務局長 岩室晶子さん

ユニークな発想の企画で面白い記事を書き、その上文章も表現もうまい。「自由な雰囲気心地よく、ここまで子どもが主体的に関われる社会的な活動はないと思う」という、ジュニアタイムズ10号に掲載されたジュニア記者OBのコメントが興味をそそる。「つづきジュニア編集局」(以下ジュニア編集局)の魅力について、NPO法人ミニシティ・プラス事務局長の岩室さんに、話を伺った。
取材・文=市民ライター・生田晃隆



1.お話を伺った岩室晶子さん 2.新開発製品に触れ目が輝くジュニア記者、子どもならではの質問が飛び出す 3.京セラ横浜事業所取材のジュニア記者たち

つづきジュニア編集局10年のあゆみ

NPO法人ミニシティ・プラス(以下ミニシティ)には、ミニヨコハマシティ、ジュニア編集局、特命子ども地域アクター、MMジュニア編集局の4部門がある。

ジュニア編集局は、都筑区制15周年の節目に当たる平成21年に発足し、ミニシティと、東京都市大学メディア情報学部中村研究室との連携で運営されている。ジュニア編集局の活動は、公募で集まった小学5年生から高校生までのジュニア記者たちが、主体性を活かした子ども目線で、横浜や都筑の魅力取材し、記事を書き、年1回の集大成としてタブロイド版新聞「ジュニアタイムズ」を発行することにある。

こどもの主体性を大事にする、ジュニア記者たちの活動が始まる

第1回目の編集会議では、ジュニア記者が希望の取材先について話し合い、第2回目では、取材記者としての文章の書き方講座を受ける。「最初から子どもたちみんなが積極的ではなく、恥ずかしくて自己紹介もできない子どももいる。それが1年後の卒業頃になると積極性にあふれ、堂々としてくる」と岩室さん。書くことがない、書けない

と言っていた子どもも、大人の少しのアドバイスですらすらと立派な文章が書けるようになったこともあるそうだ。成功体験の積み重ねが、子どもたちを成長させていく。ジュニア編集局の活動は、取材先の希望や新聞記事の内容についても、子どもたちが編集会議を行い、決めている。「大人は正解をイメージして物事を進めがち。でも答えを出すのがすべてではない。ミニシティの活動では、子どもたちが主体的になれるよう、みんなで話し合いながら進めていくスタイル」と岩室さんは語った。大人も聞く耳を持つことが大切なのだ。

ジュニア編集局は子どもたち自身の未来につながる

ジュニア編集局での取材経験が、子どもの将来へつながった事例がある。例えば、保育園に取材したことが縁で保育士を目指している人、ジュニア編集局での取材経験から、新聞社に入社し記者になった人もいる。ジュニア編集局は、子ども自身の主体的な取材と編集を通じて、子どもたちを堅実な成長へと促していると筆者は感じた。令和元年7月24日、京セラ株式会社横浜事業所を、ジュニア記者16名が取材した。ジュニア記者たちは、珍しい新製品開発や、激しい開発競争の

話を身を乗り出して聞き入っていた。世界の京セラが開発製造した製品に直接触れながら目を輝かせ、回答に窮するほどの厳しい質問が飛び出す。筆者の興味を誘ったのは、子どもたちの主体的に取り組む姿であった。未来を担う子どもたちが、まちの魅力を取材し、まちを知り、まちを愛する子どもになる活動、「つづきジュニア編集局」。ジュニア編集局が未来に向かって、更なる活動と発展へと向かう、高らかな鼓動が聞こえてくる。

information

NPO法人ミニシティ・プラス
住所:横浜市都筑区中川1-4-1-107
TEL・FAX: 045-306-9004
e-mail: minicityplus@gmail.com
URL: http://minicity-plus.jp/

新講座



輝く女性応援プロジェクト そろそろ本気の「わたし」2019～「好き」を大切に生きる♡～

“わたし”らしく生きていくために何かを始めたいと思っている女性の“次の一歩”を応援します。今回のテーマは「自分を知る」。自分が好きと感じることを見つけ、自分自身の心と身体をゆっくりと見つめてみませんか。

[日程]木曜10時-12時(詳細は下記参照)
[対象]20-50代の女性20人先着順・事前申込み要
[会場]都筑区役所会議室 [託児]有・先着6名(事前申込み要)

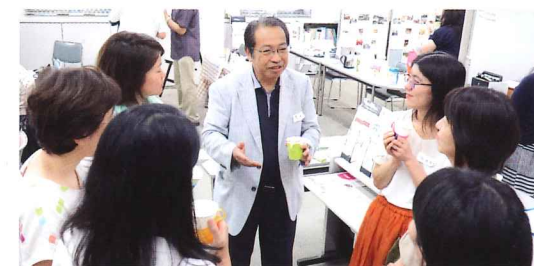
日付	内容	講師
10/3	私と出会うワークショップ!	モヤークラ委員会
10/10	自分の「好き」を見つけよう!	川田 治さん(女性起業家専門コーチ)
10/17	身体を整えて「好き」なことをしよう!	栗林 伸子さん(健康コアトレーニング講師)
10/24	「好き」についてワイワイ話そう!	モヤークラ委員会
10/31	お金を「好き」になると未来がみえる	宮川 真由美さん(お金のマイコーチ@銀座)
11/7	「好き」が人生を動かす	小栗 ショウコさん(働く女性プロデューサー)
11/21	Tea & Talk	モヤークラ委員会



ボランティアベースつづき

ボランティアベースつづきはボランティアをしてみたい人とボランティアを必要としている人が出会う場所。ボランティア活動が初めての方もボランティア活動歴が長い方も自分の趣味を活かして誰かのお手伝いをしたい人も毎月第4金曜日ボランティアベースつづきに集まろう!

[日程]毎月第4金曜15時-17時 [会場]都筑区民活動センター
[テーマ]9月:自然にかかわるボランティア/10月:イベントや公演を支えるボランティア/11月:地域活動を支えるボランティア



つながりカフェ

テーマに沿ったゲストスピーカーをお招きして、お茶を飲みながら自由に語り合うカフェです。どなたでもお気軽にお越しください。事前申込み要・当日参加も可・参加料50円(カフェ代)

[日程・テーマ]
9月28日(土)10時-12時 聞きたい、話したい 都筑のイベント
10月23日(水)10時-12時 ふるさと都筑を語ろう
12月7日(土)13時30分-15時30分 現役世代も地域で活躍
[会場]都筑区民活動センター



縁ジンミーティング 広報力アップ講座開催

団体になぜブランディングが必要なのかを学び、活動の想いを明確に伝えるためのポスターデザインを学びます。

[日程・テーマ]
10/28(月)13時30分-15時30分 団体のブランディングを考えよう
11/18(月)13時30分-15時30分 伝わるポスターをデザインしよう
[講師]信乃亨さん(デザイナー) [会場]都筑区役所6階会議室
[対象]市民活動団体・生涯学習サークル
[定員]20人先着順(託児有)・事前申込み要



プログラムバンカー日体験講座

特技や経験、得意なことを活かし、地域で活躍するボランティアの制度「プログラムバンク」。区民活動センターでは毎月1回体験講座を開催中。どなたでもご参加いただけます。

[日程・内容/定員/材料費](全て事前申込み要)
9/18(水)10時30分-12時 体験型お片付け教室/8人/500円
10/4(金)10時-11時30分 初めての気香レッスン/12人/250円
11/16(土)10時-12時 げんき絵手紙講座/10人/500円
[会場]都筑区民活動センター